



まのくに

一般社団法人 和歌山県建築士会

No.542



CONTENTS

わかやまの公共建築 第68回 2 道の駅 四季の郷公園 FOOD HUNTER PARK	令和3年(2021)度 和歌山県建築関係新体制 令和3年(2021)度 和歌山市建築関係新体制 8
応急仮設住宅とその後の活用 ～和歌山の災害に備えて～ 4	いんふおめーしょん 5・6・7 令和3年度 第二期 一級/二級/木造建築士定期講習のご案内 設計業務従事者にもおすすめの監理技術者講習受講のご案内 新入会員のご紹介
近畿建築士会協議会青年部会主催 “New KINKI Normal ココからの建築” 5	行事予定・会員の皆様へ 7



応急仮設住宅とその後の活用 ～和歌山の災害に備えて～

このタイトルは、和歌山県木造住宅生産体制強化推進協議会で進めている応急木造仮設住宅に興味を持ってくれた神戸松蔭女子学院大学人間科学部ファッション・ハウジングデザイン学科の光田百合絵さんの卒業研究作品タイトルです。

光田さんは、和歌山市出身、神戸で学んでいます。卒業研究を防災のテーマで考えていて、和歌山県建築士会が木造仮設住宅に取り組んでいることをニュースで知り、昨年、指導されている同大学米原慶子准教授と建築士会を訪問されました。木造仮設住宅について平成24年から取り組んできた経緯や現状、課題についてお伝えし、質問や意見交換を行いました。

そしてこの度卒業研究の成果を報告に来られました。研究の動機や目的が明確で、全国の仮設住宅の状況を良く調べられ、和歌山県建築士会の取組もお伝えしたことを上手く要点整理されていました。計画の提案では、①住まい方の提案 ②木造仮設住宅団地の配置計画案 ③恒久住宅への転用後のリノベーション案 ④恒久住宅への転用後の配置計画案にわかれています。

住まい方の提案では、各タイプの平面図にゾーニングし、机やベッド等の家具が配置され空間の広さがイメージできます(図-1)。仮設住宅の場合、非常時の最小限の空間を確保することが主体となって、寝室が一室と居間の一部も寝室として使う想定で考えていますが、この提案からその中でどのような住まい方ができるか丁寧な検証が必要だと感じました。

配置計画はふじと台の住宅団地の最も東側で想定されています。現実的には住宅地の敷地として販売され住宅が建設される場所ですが、将来の恒久住宅への転換のため民間の所有地を候補地として検討されました。二戸一18坪タイプと二戸一18坪タイプに3坪の収納を設けた21坪タイプを配置している。二戸一18坪タイプは敷地の北半分にとり、21坪タイプは南半分にとりまとめた提案です(図-2)。

恒久住宅への転用後の配置計画は、仮設住宅同士の間隔をあけるように、間にあった仮設住宅を取り除き、恒久住宅への周辺環境を整備す



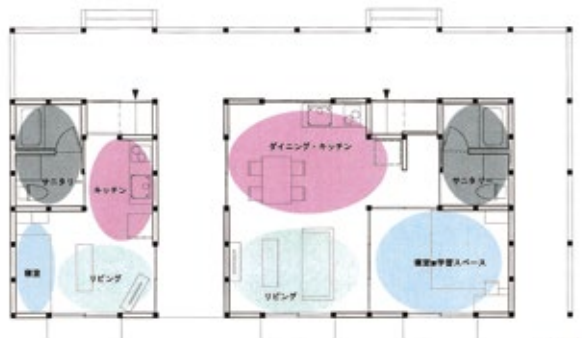
る方向性は可能であると検討していましたが、具体的に提示された初めての提案だと思います(図-3)。非常に重要な視点で仮設住宅から恒久住宅への転換する配置計画のパターンを具体的に検討していく必要があると感じました。

光田さんは今春社会人となられ設備系の業務をされます。活躍を期待しています。米原先生には建築士会の木造仮設住宅の取組にご協力とご指導を頂いたことに感謝いたします。

中西重裕(副会長)

●計画提案

①住まい方提案



6坪+12坪 タイプAの応急仮設住宅

- 6坪(単身用) : 広い空間ではないので、できるだけ広い空間を作るように家具はベッド、ローテーブル、テレビと少なくしました。
- 12坪(三人以上住まい用) : 一番広いスペースを家族全員が使うリビング・ダイニングにし、6帖のスペースにはデスクを置き、学習や仕事スペースにしました。

図-1
(木仮設住まい方の提案)

②木造仮設住宅団地配置計画案



④恒久住宅への転用後配置計画案



6坪+12坪 タイプA	22棟 (44戸)
9坪+9坪 タイプA	22棟 (44戸)
6坪+12坪 タイプB	17棟 (34戸)
9坪+9坪 タイプB	17棟 (34戸)
計	78棟 (156戸)

図-2(配置計画)

図-3(復興住宅配置計画)